令和８年度　第３回「ケアマネ勉強会」を開催しました。

９月４日（金）日本福祉大学福祉社会開発研究所　リサーチフェロー　野村　豊子　様を講師にお招きし、『信頼関係を築き、利用者の力を引き出す面接技法～ロールプレイを通して学ぶ基本的な面接技法～』をテーマに勉強会を開催しました。

今回の研修では、ケアマネジメントにおける相談援助の本質と、利用者との信頼関係を築くためのコミュニケーション技術について学んだ。

講義やロールプレイを通して特に印象に残ったのは、受容・傾聴・共感の重要性である。ケアマネジャーは、課題を解決しようと急いでサービスを提案するのではなく、まず利用者の話を丁寧に聴き、その人が何を大切にしているのかを理解することが必要である。本人の思いを「引き出す」のではなく、「語っていただく」という姿勢が信頼関係につながることを学んだ。

また、言葉だけではなく、表情や視線、姿勢、声のトーンなどの非言語コミュニケーションも重要である。相手の反応をよく観察し、その人にとって安心できる距離や関わり方を意識する必要があると感じた。

ロールプレイでは、家族の希望を優先するのではなく、本人の意向を丁寧に確認することの大切さを実感した。質問についても、開かれた質問と閉じられた質問を状況に応じて使い分けることで、認知症のある方とも会話を広げられることを学んだ。

今回の研修を通して、ケアマネジャーの役割は単にサービスを調整することではなく、利用者が安心して思いを話せる関係をつくり、本人自身が答えを見つけられるよう支援することだと改めて感じた。今後は、一人ひとりの価値観や思いを尊重し、面接後の振り返りも大切にしながら、利用者に届く相談援助を実践していきたいとの感想を多くいただきました。

当日は４０名のケアマネジャーの方々にご参加いただきました。



